

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年8月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第31週の報告数39,708件をピークに減少傾向にあります。小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 手足口病は流行警報レベルに達し、市内で流行が続いています。
- ヒトメタニューモウイルス、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス等が検出されています。
- 梅毒などの性感染症は、高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

＜8月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	11件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件
E型肝炎	2件	クロイツフェルト・ヤコブ病	2件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	10件

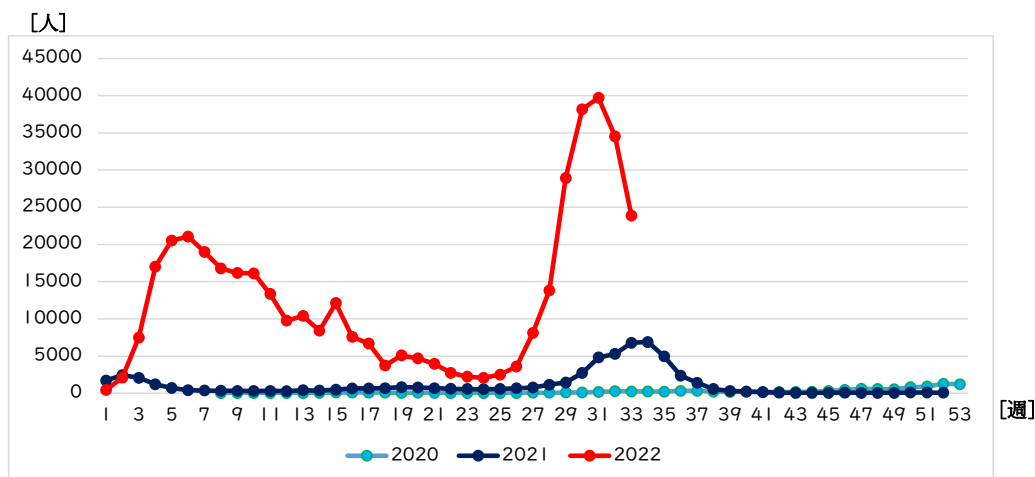
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～60歳代で、O157が9件、O103及びO145の報告が1件ずつありました。6件は国内での経口感染、1件は接触感染と推定され、4件は感染経路等不明です。
- 2 **E型肝炎**:50歳代～80歳代で、1件は国内での経口感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 3 **A型肝炎**:20歳代(ワクチン接種歴不明)で、国内での経口感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症**:20歳代～90歳代で、1件は国内での水系感染と推定され、2件は感染経路等不明です。
- 5 **アメーバ赤痢**:50歳代～60歳代で、1件は性的接触(異性間)と推定され、3件は感染経路等不明です。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 7 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:70歳代で、孤発例の報告が2件ありました。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満(ワクチン4回接種)、80歳代(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。1件は飛沫・飛沫核感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 9 **水痘(入院例に限る)**:50歳代(ワクチン接種歴不明)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 **梅毒**:30歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。性的接触による感染が8件(異性間6件、詳細不明2件)、感染経路等不明が2件です。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

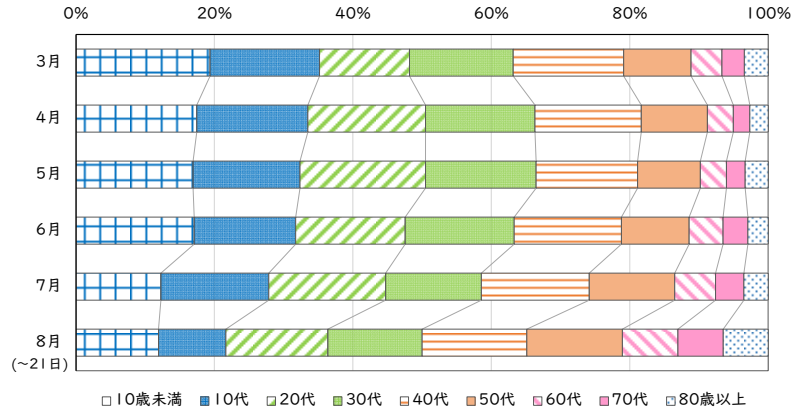
第30週～第33週に横浜市から報道発表がありました症例は136,255件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

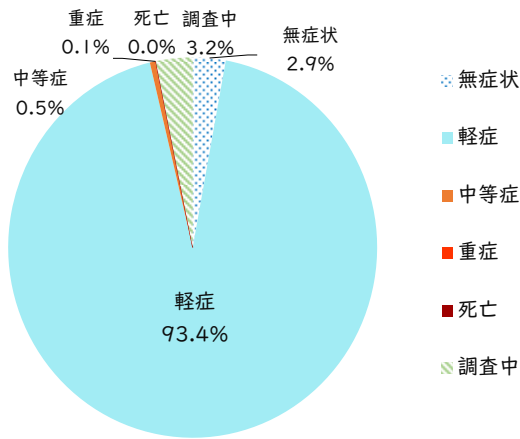
1 報告数の推移



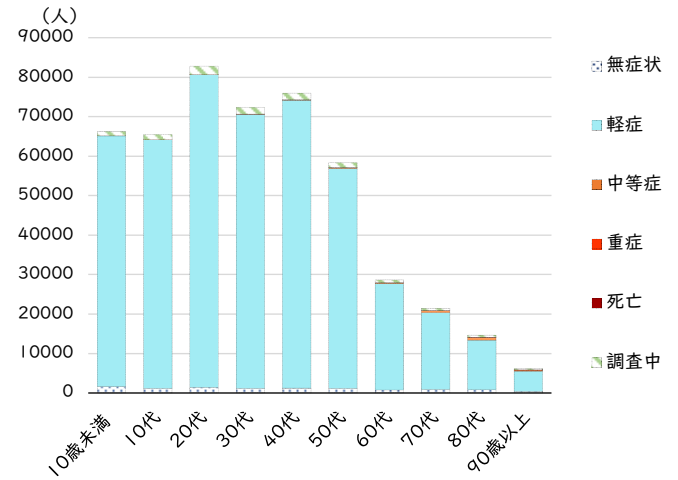
2 年齢層別患者割合



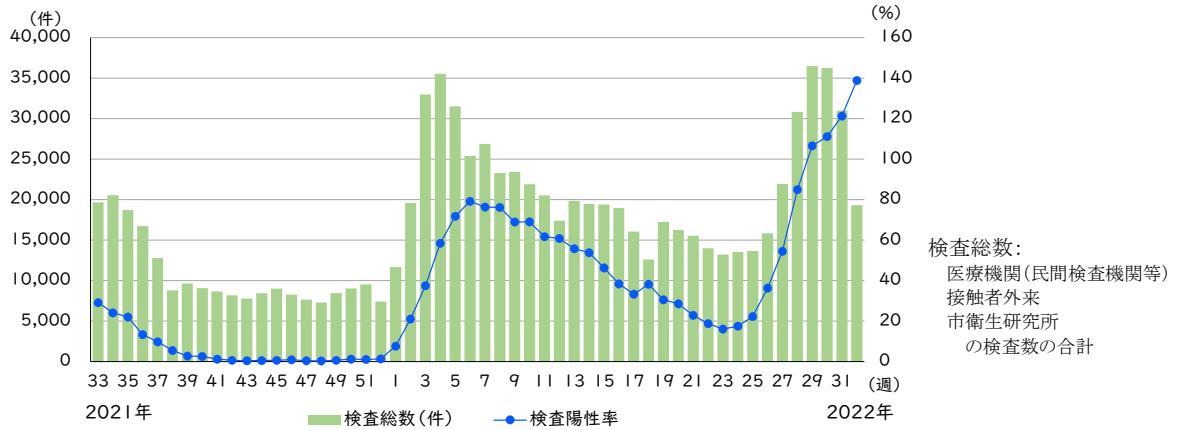
3 陽性確定時の症状の割合(2022年第33週まで)



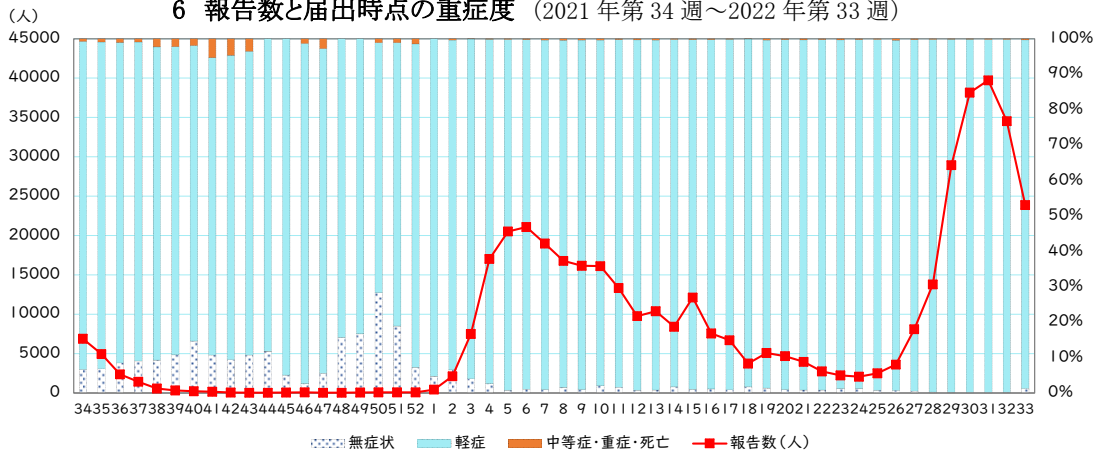
4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第33週まで)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第33週～2022年第32週)



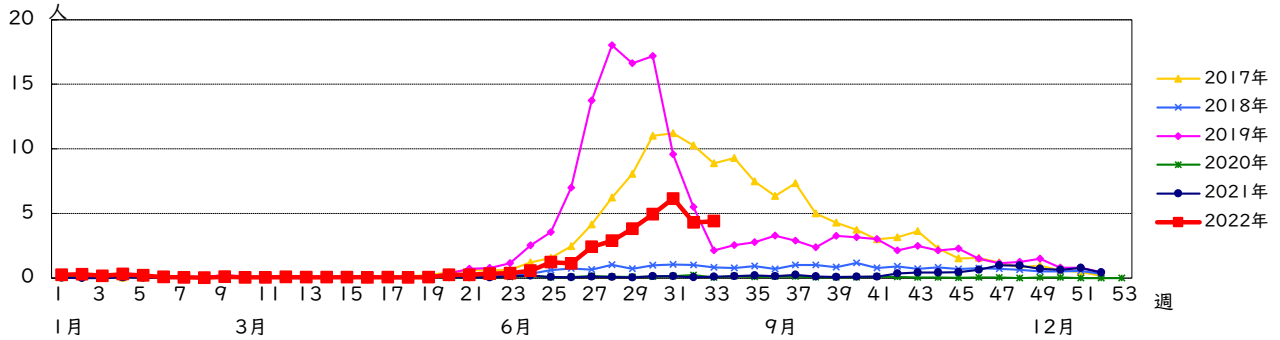
6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第34週～2022年第33週)



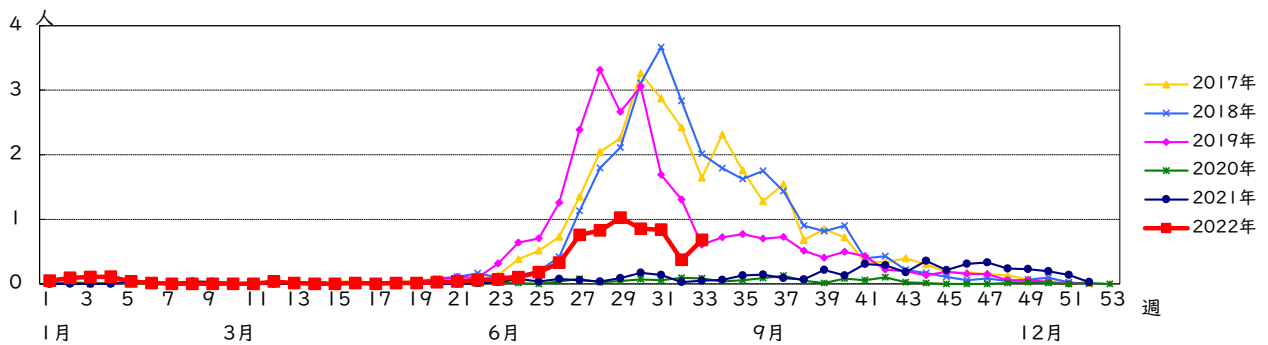
報告週対応表	
第30週	7月25日～7月31日
第31週	8月1日～8月7日
第32週	8月8日～8月14日
第33週	8月15日～8月21日

◇ 定点把握の対象

1 手足口病：第20週以降増加が続き、第31週は6.15で、流行警報発令基準値5.00を上回りました。第32週は4.29、第33週は4.40ですが、市内での流行は続いています。



2 ヘルパンギーナ：第20週以降増加が続き、第30週は0.85、第31週は0.84、第32週は0.37、第33週は0.68となっています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:38件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:5件
尖圭コンジローマ	男性:8件	女性:2件	淋菌感染症	男性:20件	女性:5件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.67	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

8月期(2022年第30週～第33週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点21件、眼科定点1件、基幹定点3件、定点外医療機関からは3件でした。

RSウイルスサブグループA遺伝子2件、コクサッキーウイルスA6型遺伝子3件、ライノウイルス遺伝子1件、ヒトパラインフルエンザウイルス1型遺伝子3件が検出されました。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第30週～第33週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	肺 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	手 足 口 病 ・ 気 管 支 炎
RSウイルスサブグループA		- 2				
コクサッキーウイルスA6型	- 1			- 1	- 1	
ライノウイルス				- 1		
ヒトパラインフルエンザウイルス1型		- 1	- 1			- 1
合計	- 1	- 3	- 1	- 2	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

8月期(2022年第30週～第33週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、サルモネラ属菌2件でした。非定点からの依頼は、非結核性抗酸菌(NTM)2件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌15件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、侵襲性肺炎球菌2件、バンコマイシン耐性腸球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、基幹定点からレジオネラ属菌遺伝子検査1件、非定点から細菌遺伝子検査2件、保健所からレジオネラ属菌1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から咽頭炎が3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2022年第30週～第33週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)	
		サルモネラ属菌	2 <i>Salmonella</i> Stanley (1)、 <i>Salmonella</i> Typhimurium (1)	
	非定点	非結核性抗酸菌(NTM)	2 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscesses</i> (2)	
保健所		腸管出血性大腸菌	15 O157 : H7 VT1 VT2 (5)、O157 : H7 VT2 (3)、 O157 : H7 VT1 (1)、O157 : H- VT2 (1)、 O103 : H2 VT1 (2)、O145 : H- VT2 (1)、 OgUT : Hg2 VT2 (1)、Og76 : Hg19 VT1 VT2 (1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Serratia marcescens</i> (1)	
		侵襲性肺炎球菌	2 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15C (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15A (1)	
		バンコマイシン耐性腸球菌	1 <i>Enterococcus faecium</i> vanA (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
医療機関	基幹定点	喀痰	レジオネラ属菌遺伝子	1 LAMP法 陰性 (1)
	非定点	動脈壁、膿性部	細菌遺伝子	2 2種類以上の細菌遺伝子が検出 (2)
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	1 <i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	3	A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)、 A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1)、 溶血性レンサ球菌 不検出 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】